P1-019

保育所で医療的ケア児を支援する看護師の役割の認識

矢野 芳美、永谷 智恵、佐々木 俊子
名寄市立大学保健福祉学部 看護学科

【目的】
医療的ケアが必要な子どもが、保育所に通うためには、保護者、看護師の付き添いが必要となる。今回、保育所で医療的ケアを受ける子どもを支援する看護師の役割の認識を明らかにする。
【方法】
保育所で子どもに医療的ケアを行う看護師に半構成的面接を実施した。得られたデータから逐語録を作成し、類似性、相違性に基づきカテゴリーを抽出した。所属する研究機関の倫理委員会の承認を得て実施した。対象者には研究の主旨を説明し、参加の自由、途中辞退が可能、プライバシー配慮等を口頭、文書で説明し、同意を得た。
【結果】
面接を実施した看護師は年齢30 ～ 40歳代、女性2名であった。子どもの支援期間は、両者2年を経過していた。
分析の結果、サブカテゴリ―数15、カテゴリー数3が抽出された。カテゴリーを【　】で示す。
看護師は保育の場での【保育士との協働のバランス】を考えていた。子どもの体調管理、必要な処置とケアを提供し、子どもが保育士から保育が受けられるように配慮していた。保育所での看護師としての立ち位置は前面に出ないことを心掛けていた。そして、看護師としてもっと保育所で自分ができることを模索していた。保育所では、【子どもの命を守るのは看護師の責任】であると考え、医療機関ではない場、医師が駐在しない、緊急時対応等に不安を持っていた。不安な中でも子どもの登所は始まったため、子どもの受け入れを保育所全体で一緒に考え、取り組んでいた。このような取り組みで、医療に関する危機管理について体制を整えることができた。母親は子どもを一日も休まず保育所ですごさせたいと考えていた。看護師も子どもと心から楽しく過ごし、子どもの貴重な時間を守れることを大切に感じていた。母親の状況を把握しながら、育児もケアも身に付けられるサポートを行っていた。保育士と共に【母親の子育てを支援】を考えていた。
【考察】
看護師の役割の認識は、子どもは保育を受けに来ていることを念頭に置き、看護師は保育士が主体となり保育ができるように考えていた。しかし、看護師として子どもの危機管理については責任を持って対応しようとしていた。また、子ども医療的な支援のみならず、保育士と共に母親の子育てを支援することも役割と認識していると考えられた。

P1-020

自閉症スペクトラム障害をもつ子どもの障害告知に関わる看護師の実践

藤田 千春[1]、荒木田 美香子[1]、竹中 香名子[1]、今井 美保[2]
[1] 国際医療福祉大学小田原保健医療学部 看護学科
[2] 横浜市西部地域療育センター

【目的】
近年、幼少期に自閉症スペクトラム障害（以下、ASDとする）を診断され、療育機関や発達クリニックに通う子どもが増えている。知的障害をもたないASDの子どもでは、成長に伴って自己の特性に違和感を持つことがあり、中学進学前後に障害告知を行う場合もある。そのため子どもが障害告知を円滑に受けられるような看護的支援が必要とされるが、その詳細は明らかでない。そこで、本研究は、障害告知を受けるASDの子どもに関わる看護師の実践を明らかにすることを目的とした。
【方法】
対象はA県B市内の療育施設の児童精神科外来で障害告知の診察介助を担当した経験のある看護師に半構造化面接調査を行った。調査は2017年4月～5月に実施した。調査内容は、対象の背景とASDの子どもの障害告知の支援についてである。同意を得て録音したデータを、逐語録化し質的記述的に分析した。
【倫理的配慮】
本研究は国際医療福祉大学の研究倫理審査委員会の承認を受けて実施した。
【結果】
協力が得られた3施設6名の看護師は平均年齢48歳であり、児童精神科外来の勤務経験平均は15.5±9年であった。分析の結果、5個 の【カテゴリー】と14個 の＜サブカテゴリー＞が抽出された。ASDの子どもの障害告知に関わっている看護師は、【親の告知ニーズを医師につなぐ】役割となり、ASDの子どもの告知に向け＜告知の仕方を主治医と確認する＞こと＜ケース情報把握のために心理士につなぐ＞こと＜告知用の診察機会を設定する＞など【万全な告知となるよう準備する】ように努め、告知の当日は＜児が落ち着いて告知を受ける環境を調整する＞といった【適切な告知が受けられるよう関わる】ことをしていた。告知後は【告知後の子どもを見守る】ことに加え、＜告知内容における親の解釈を助ける＞など【親に告知内容の理解を促す】ようにしていた。
【考察】
ASDをもつ子どもの障害告知に関わっている看護師の実践は、親がASDの子どもへの告知を依頼した時から、子どもが万全な状況で障害告知を受けられるよう関わっていたことが明らかになった。また、告知後も子どもの生活にプラスに働くための理解となるように、親にも医師の告知内容について適切な理解となるよう配慮していた。このようなASDの子どもと親が告知内容を共有できるための支援は、子どものライフイベント時に生じる困難への対処に寄与するため重要な支援であると考えられた。

Presented by Medical*Online